

2024年度 教養デザイン研究科 新規授業科目の概要(博士前期課程)

科目区分	授業科目の名称	担当教員	演習等の内容
コース必修科目 思想領域研究科目	思想領域研究演習Ⅰ (雲南の漢族移民史)	西川和孝	中国西南隅に位置し、険しい山々と一部の盆地からなる雲南省には、古くは南詔国・大理国といった土着政権が存在する非漢人の世界であった。しかし、14世紀中華王朝である明朝の支配が及ぶにともない、漢人との混住が開始され、中華人民共和国の一部として今日に至っている。如上の非漢人世界から現在に至る歴史の変遷に関して、漢文史料や中国語文献に見える記載を読み解きながら、移住や混住の実態を観察しつつ、そこから伺われる背景と課題について、議論していく。
	思想領域研究演習Ⅱ (雲南の環境史)	西川和孝	清朝期半ば、中国に伝播した新大陸産作物が漢人移民によって中国周辺地域に持ち込まれた。寒冷に強い新大陸産作物が、山々を耕作可能な土地にしたことで、雲南の環境は大きく変貌することとなった。この環境変化という課題に対して、村レベルの詳細な記載が残る碑文などの民間史料を参照し、史料の使用法や読解力を養いつつ、その実態について分析していく。また、環境変化が引き起こした問題、さらには後世に如何なる影響を与えたかについても議論する。
	思想領域研究演習Ⅲ (雲南の経済史Ⅰ)	西川和孝	清朝期、大量の銅銭鑄造を目指した清朝政府号令の下、雲南省において大規模な銅山開発が進められた。銅山開発の本格化は、鉱物を各地に運搬するべく、全国各省に通じる水運を中心とした交通網の整備を促した。かくの如く、中華世界の片隅に鎮座する雲南省が、清朝経済を左右する存在へと変貌する歴史的過程について、王朝が編纂した漢文史料に基づき、その実態を読み解き、これと同時に、雲南省に代表されるような従来の歴史学では等閑視されていた地域に対する研究アプローチの方法を獲得する。
	思想領域研究演習Ⅳ (雲南の経済史Ⅱ)	西川和孝	清末民国以降、英仏などの欧米列強が、豊かな鉱物資源を誇る雲南の経済権益を狙い、ベトナムに繋がる滇越鉄道を敷設した。鉄道の開通により、内陸に位置する雲南省は、中国沿岸部の巨大市場と連結し、世界経済の一部に組み込まれることとなったのである。授業では、この過程に関する日本語史料、中国語史料、欧文史料の読み比べを通して、各々の史料の記述の差異を学びつつ、同時代の国際情勢を分析した上で、世界経済に与えた影響についても議論する。

2024年度 教養デザイン研究科 新規授業科目の概要(博士前期課程)

科目区分	授業科目の名称	担当教員	演習等の内容
コース必修科目 「文化」領域研究科目	地域文化研究演習Ⅰ (フランス近現代史)	前田更子	ヨーロッパ近現代史(とくにフランス)関連の研究文献・史料の読解を通じて、修士論文を執筆するために必要な技能と知識を深める。2024年度はとくに、フランス革命から第一次世界大戦までのフランスにおける福祉・教育の歴史を宗教・世俗化の観点から扱った文献を精読する予定である。先行研究の状況を理解し、史資料の可能性を吟味し、フランス福祉国家の形成・変容過程を考察する視点を得ることが目標となる。
	地域文化研究演習Ⅱ (フランス近現代史)	前田更子	春学期(演習Ⅰ)から継続して、フランスの福祉・教育社会史、宗教社会史に関する文献(日本語、フランス語、英語)を精読する予定である。また、文献・史料講読を通じて、西洋史研究に不可欠な外国語運用能力を高め、史料の調査方法を習得し、手稿史料の解読能力を身につけることを目指す。史料批判の視点も鍛える。なお、受講者には、各自の研究テーマに関する発表を随時行ってもらおう。
	地域文化研究演習Ⅲ (フランス近現代史)	前田更子	1年時(演習Ⅰ・演習Ⅱ)から継続して、福祉・教育社会史、宗教社会史に関する文献を精読する予定であるが、扱う文献は、受講者の研究テーマに応じて選定する。その作業と並行して、受講者は、修士論文の執筆に向けた具体的な作業を進める。先行研究を網羅的に検討し、史料の読解に時間を費やす。授業内に複数回の発表を行ってもらい、教員および他の受講生と議論し、修士論文の精度を上げていく。
	地域文化研究演習Ⅳ (フランス近現代史)	前田更子	受講生は各自、修士論文の執筆を進める。授業の前半では複数回、口頭で発表してもらおう。授業内での他の受講生・教員との議論を通じて、自らの研究の問題点を自覚し、研究を修正・深化させていく。授業の後半では、論文の草稿を教員・他の受講生とともに吟味しながら、論文の構成・内容の最終確認をする。訳語等のチェックも行おう。